

授業概要

本演習では、1. 大学生活に慣れること、2. 学問の意義を知ること、3. 資格取得のコツを学ぶことを指導します。まず、大学4年間をどのように過ごせばいいのか、時間割の作り方やノートの取り方、試験の受け方、などをお知らせします。次に大学で学ぶ意義を知っておきましょう。学問とは何か、石門心学の創始者石田梅岩(1685~1744)の『都鄙問答』をもとに学問の意義について輪読をします。そして最後に資格取得のコツについて学びます。「大学在学中に資格くらいは取りたい」という学生への伝授です。高校時代とは異なった視点から勉強のやり方、教科書の読み方、問題集の活用を実践してもらいます。この演習は、日商簿記3級・2級・1級合格などをを目指す学生が対象です。

授業計画

(注意) 新型コロナのため授業内容の一部変更もあります。

第1回	第1部 ガイダンス：大学4年間を上手に過ごすコツとは何か？ 答：学士と資格だろ
第2回	①効率のいい「時間割表」作成とは？ 早朝に勉強開始、昼は授業、夜は資格取得だ・・・
第3回	②ノートの取り方が定期試験を左右する、そのコツは何か、授業中にまとめよう。
第4回	③ディスカッション：意見を言うなら根拠をだせ、他者の意見を聴く、話を「図式化」せよ。
第5回	第2部 学問の意義：学ぶ「信念」を持つと、そして「正直・勤勉・儉約」に実践しよう。
第6回	①石田梅岩『都鄙問答』：武士の道、商人の道、学問の道
第7回	②石田梅岩『都鄙問答』：天知る、地知る、我知る、人知る⇒「四知」のおしえ
第8回	③石田梅岩『都鄙問答』：天人合一、尽心知性、不立文字
第9回	第3部 資格取得：勉強のコツとは何か？ 目標の明確化（例：公認会計士、税理士になる）
第10回	①簿記の教科書の目次を体系化せよ、「目次一覧」を見ながら自己講義、声が枯れるまでやれ
第11回	②基本書300頁の読み方のコツ ⇒ 1H25の原則で3回転以上
第12回	③貸借対照表と損益計算書の勘定科目を音読し、その構造を何度も筆写しよう。
第13回	④試算表、精算表をゲーム感覚で解答しよう、とにかく反復学習に耐えろ。
第14回	⑤過去問題集を3回転制覇しろ、答えを暗記するまで繰り返せ、あきらめんな
第15回	⑥夏休みの計画を立てよう、今夏を制する者が大学4年間を制する・・・！その覇者になれ。
第16回	定期試験実施

到達目標

1. 大学4年間を楽しく過ごせる生活のリズムを自分で作ること。
2. 石田梅岩の唱えた「学問の道」を理解し、その実践を心がけること。
3. 「日商簿記検定」等の資格試験を受験するための心と身体の準備を十分に整えること。

履修上の注意

1. 授業中の私語は禁止です、他の学生の学ぶ権利を侵害します。
2. 遅刻や中途退出も迷惑です、携帯電話の呼び出し音や振動音が鳴らないようにする。
3. 授業中の飲食はマナー違反です。
4. パソコンのWord, Excel, PowerPoint, Outlookメールの活用に習熟せよ。
5. 春期の「初級簿記」は、必ず履修登録すること。
6. 見聞を広めよ⇒ 毎週1冊岩波新書を読み、月1本映画を観て、一流の職業会計人になろう。

予習・復習

1. 日商簿記のテキスト&問題集を毎日3時間は解答する。
2. 勉強時間をカレンダーに記録＝「見える化」し、時間管理を徹底せよ。

評価方法

- ・レポート提出50%、定期試験50%で総合評価をします。
- ・授業態度不良者は「不可」とする。

テキスト

第1回の授業で発表します。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え有意義な大学生活が過ごせるようになってほしい。

授業計画

第 1 回	大学生活に慣れる①（自己紹介の文章作成報告、履修計画の作成）
第 2 回	大学生活に慣れる②（大学での授業のあり方や規則、大学のホームページの利用）
第 3 回	授業の受け方を体得する①（ノートのとり方、テキストの読み方）
第 4 回	授業の受け方を体得する②（レポートの作成法）
第 5 回	大学で学ぶ意味を考える（大学での目標、学力調査）
第 6 回	企業について知り、意見をまとめる①（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 7 回	企業について知り、意見をまとめる②（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 8 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる①（主要な時事問題、論者の意見をまとめる）
第 9 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる②（新聞の社説等を使って、自分の意見をまとめる）
第 10 回	わからない事項を調べる（図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法）
第 11 回	意見を発表し、討論する①（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 12 回	意見を発表し、討論する②（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 13 回	自分の将来について考える①（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 14 回	自分の将来について考える②（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 15 回	自分の将来について考える③（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 16 回	総括

到達目標

- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
- 大学での学び方を体得する。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論してほしい。なお、学外活動を行う場合がある。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する。

テキスト

- 開講時に指示する。
- 必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

IT化がより進み、AIロボットも身近な存在となっている今、『人間理解』が益々重要となってきた。私達人間とはどのような生き物なのか、人間が他の動物と違っている点は何なのか、人間でなければ出来ないことは何のかなど、人間を理解し、今後どのような社会が求められていくかについて、演習を通して理解を深められるよう指導する。また、グローバル化で社会はどう変わっていくかについても理解深める。

授業計画

第1回	宇宙とは？/地球とは？
第2回	人間とは？/植物と動物の違いは？
第3回	物質とは？/無機物と有機物の違いは？
第4回	環境とは？/気候、気温、風、水 等
第5回	愛とは？/家族とは？
第6回	人間関係とは？/共に生きるとは？
第7回	人間の心とからだ
第8回	人間の進化/脳の発達
第9回	地球儀から人類を理解する
第10回	地球儀から自然環境を理解する
第11回	地球儀から産業を理解する
第12回	地球儀から経済を理解する
第13回	地球儀から政治を理解する
第14回	地球儀から病気を理解する
第15回	望ましい人間社会に求められること
第16回	試験

到達目標

- 地球や自然と人間の関係を理解する。
- 人間の特性について理解する。
- 地球全体で物事をとらえる。
- 人間社会について理解深める。
- 地球の様々な出来事理解から人間の本質を理解する。

履修上の注意

休まず積極的に参加すること。

予習復習

事前に教科書をよく読んで、予習してくることと、終了した単元を復習すること。

評価方法

発表点 (25 点)、レポート点 (25 点)、学期末試験 (50 点)

テキスト

- 教科書名：『天声人語』2020 秋
- 著者名：朝日新聞
- 出版社名：原書房
- 出版年 (ISBN)：

授業概要

経済、経営とは何かについて学ぶ最初の入り口となることを目指しています。そのための1つの手立てとして、現在の日本の経済と企業の現実について学習し理解することが有益です。第1に、日本の経済を構成する幾つかの主要な産業の実態や特徴、第2に、日本企業の海外進出、これらについて知ることです。特に、後者について学ぶ理由は、日本の多くの大企業の活動が、今日、顕著な国際化（グローバル化とも言います）を遂げているからです。

この演習では、受講生の皆さんが、我が国の主要な産業や企業の現状、中国、アメリカなどでの日本企業の活動の実態などを知ること、現代経済と企業経営についての基礎的な理解が得られるように指導します

授業計画

第1回	はじめに一演習の進め方
第2回	大学で学ぶということ
第3回	経済学と経営学
第4回	日本経済の現状を知る(1)－自動車産業
第5回	日本経済の現状を知る(2)－電気機械産業
第6回	日本経済の現状を知る(3)－鉄鋼業
第7回	日本経済の現状を知る(4)－繊維・アパレル産業
第8回	日本経済の現状を知る(5)－小売業・コンビニエンスストア
第9回	日本経済の現状を知る(6)－化粧品産業
第10回	日本企業の国際化を知る(1)－企業の海外進出とは何か
第11回	日本企業の国際化を知る(2)－台湾・韓国・東南アジアへの進出
第12回	日本企業の国際化を知る(3)－アメリカへの進出
第13回	日本企業の国際化を知る(4)－西ヨーロッパへの進出
第14回	日本企業の国際化を知る(5)－中国への進出
第15回	日本経済と日本企業の現段階
第16回	試験

到達目標

まず第1に、資料を読み込み、これに基づいて発表し、討論できるようになることです。第2に、日本経済と日本企業についての理解を深めることです。そして、第3に、企業の海外進出、外国での活動についての現状を知ることです。

履修上の注意

- (1) 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。
- (2) 演習のメンバーの意見を理解し、それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。

予習・復習

事前に配布する資料をよく読んで予習してきてください。演習の終了後は、何を学んだか、資料などを読み直して復習してください。

評価方法

テキストの報告と討論への参加で60%、試験40%で評定します。

テキスト

教科書の使用は予定していません。学習・討論資料を予め配布します。

授業概要

テーマ：スポーツ、マーケティング、社会科学

スポーツとマーケティングについての最も基礎的な考え方を勉強するために、その前提として、社会科学、経済学、経営学の基礎な意味についても確認します。スポーツという、誰にでもわかっているはずの「常識的な言葉」の意味もおろそかにせず、ひとつひとつをきちんと自分たちで点検し、自分の頭で考えることの楽しさを身につけたいと思っています。

授業計画

第 1 回	演習の概要
第 2 回	スポーツとは何か —— eスポーツはスポーツか？
第 3 回	経済学と経営学と社会科学
第 4 回	経営学とは何か
第 5 回	マーケティングとは何か
第 6 回	マーケティングの4P
第 7 回	スポーツマーケティングとは
第 8 回	オリンピックを考える
第 9 回	戦略の基本的な考え方
第 10 回	管理の基本的な考え方
第 11 回	スポーツマーケティング（1）「観るスポーツ」と「するスポーツ」
第 12 回	スポーツマーケティング（2）メガスポーツイベントのマーケティング
第 13 回	スポーツマーケティング（3）「するスポーツ」とスポーツ・フォー・オール
第 14 回	期末報告（1）ゼミ生によるパワーポイント・プレゼンテーション
第 15 回	期末報告（2）ゼミ生によるパワーポイント・プレゼンテーション

到達目標

スポーツ、マーケティング、スポーツマーケティングの最も基本的な概念を理解できることを到達目標としています。同時に、それぞれの概念について、自分自身で調べ、考える力を身につけることを目指したいと思っています。

履修上の注意

- ◎演習では、グーグルなどを使ってインターネットで調べてくるという課題を出します。スポーツイベントや組織はグローバル化していますので、日本語のウェブサイトだけでなく、英文のウェブサイトを調べることを嫌がらない態度が望ましいといえます。
- ◎昨今、スマホは使えるが、パソコンのメールは苦手という学生がしばしばいます。学籍番号をアドレスとしたメールは必ず活用できるように、講習をきちんと受けてください。
- ◎期末レポートとして、各自が、自ら調べてきた内容について、パワーポイントを使ってプレゼンテーションしていただきます。
- ◎演習に必ず出席することは必須です。無断欠席は認められません。
- ◎ゼミの開始時刻である朝 9 時には必ず集まること。30 分以内の遅刻は認めますが、遅刻 3 回で欠席 1 回分にカウントされます。やむをえず遅刻する場合は、必ず連絡してください。

予習・復習

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。また、予習・復習のためにネットなどで調べることは必須です。

評価方法

演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度（25%）、演習で出された課題の遂行の状況（25%）、最終期末レポート（50%）によって評価します。

演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生、および英文資料をいやがらない学生は、高く評価されます。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配ります。またインターネットで調査したウェブサイトを利用します。参考文献が必要な場合は、とりあえず、以下をご参照ください。

- ◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 — はじめて学ぶマーケティング基礎篇 — 』大月書店、2003 年
- ◎中澤真・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017 年

授業概要

1年次の教養演習は、2、3、4年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的やテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで、教養演習Ⅰでは最初に社会に出るために、就職するためにどのような人が求められているかを理解することにはじまり、そのための演習を行う。その際の題材は、社会的な課題にかかわる資料を考えている。

大学4年間でどのように過ごし、どのような就職を目指すのかは、常に意識してもらうように情報提供し、演習してもらうつもりである。

授業計画

第1回	ガイダンス・キャリアとは？
第2回	働く意味を考える
第3回	社会人基礎力の理解する
第4回	社会人基礎力を身につけるための方法
第5回	資料（例：人口問題）を使用した演習
第6回	資料（例：社会保障）
第7回	資料（例：働き方）
第8回	資料（例：共生）
第9回	資料（例：情報社会）
第10回	資料（例：地球環境）
第11回	資料（例：エネルギー）
第12回	資料（例：米中関係）
第13回	調べてきた内容を報告する①
第14回	調べてきた内容を報告する②
第15回	まとめ
第16回	定期試験

※ 人数等により進度と内容は随時調整します。資料は適宜、時事的なものに変更します。

到達目標

テキスト等の資料の内容を適切にまとめることができるようになる。
自分の意見を適切な文章で正しく伝えることができるようになる。
自分の意見を発言で他人に正しく伝えることができるようになる。

履修上の注意

テーマは上記のとおりだが、到達目標に示したように、講義ではなく演習なので、聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

予習・復習

授業内容に応じた課題を予習し、他人の意見等を聞いてまとめる復習を予定している。

評価方法

平常点45%・定期試験55%程度で評価する。
なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない

テキスト

未定。
参考文献は適宜紹介する。

授業概要

教養演習の目的は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、そして読むこと、調べること、書くこと、発表することなど、今後の学修に必要なスキルを身につけることにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事である。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれ考え、有意義な大学生活が過ごせるようになってほしい。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法などの説明）
第2回	大学生活に慣れる① 学内の規則を知り、様々な施設を上手に利用する
第3回	大学生活に慣れる② 履修計画を立てる
第4回	授業の受け方を体得する① 講義ノートの取り方
第5回	授業の受け方を体得する② テキストの読み方
第6回	授業の受け方を体得する③ レポート作成法
第7回	図書館ツアーに参加し、文献の検索方法を覚える
第8回	読書発表会①
第9回	読書発表会②
第10回	読書発表会③
第11回	グループ研究とディベート①
第12回	グループ研究とディベート②
第13回	グループ研究とディベート③
第14回	グループ研究とディベート④
第15回	春期の総括
第16回	期末試験

到達目標

- 1、大学の施設・設備を有効に活用できるようになる。
- 2、与えられた課題について調べ、意見をまとめ、発表ができるようになる。
- 3、大学での学び方を体得する。

履修上の注意

無断欠席・遅刻は慎むこと。
積極的に議論に参加し、毎回発言すること。

予習・復習

与えられた課題に対してしっかりと準備し、発表することが求められる。

評価方法

授業への参加度、課題への取り組み状況、毎回の発言・発表内容によって総合的に評価する。

テキスト

『大学生学びのハンドブック』（世界思想社）を使う。プリントを配布するので、購入は不要。

授業概要

これから本学で4年間学ぶにあたって重要であると思われる経済学、企業経営そして日本経済の基礎を学びます。基本的には、ゼミ生全員が毎回指定された教科書の箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	経済経営学部で勉強すること
第 2 回	好景気と不景気とはどういう現象か
第 3 回	インフレとデフレとはどういう現象か
第 4 回	日本の労働問題
第 5 回	新型コロナ禍の企業業績
第 6 回	キャッシュレス化の進展
第 7 回	M&A とは何か
第 8 回	円高と円安によって企業業績はどのような影響を受けるのか
第 9 回	株価はどのような意味があるのか
第 10 回	財政の歳出と歳入
第 11 回	日本の年金問題
第 12 回	アベノミクスとはどのような政策か
第 13 回	日本のエネルギー問題
第 14 回	国際経済はどのような状況か
第 15 回	最近の日本経済をどうみるか
第 16 回	課題レポートの提出

到達目標

経済学、企業経営そして日本経済の基礎を理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。

予習・復習

指定された文献や資料を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

- 教科書名：『Q&A 日本経済のニュースがわかる！ 2021 年版』
- 著者名：日本経済新聞社編
- 出版社名：日経 BP 日本経済新聞出版本部
- 出版年 (ISBN)：2020 年 9 月 (ISBN 978-4-532-35865-5) 本体 1,500 円+税

授業概要

本教養演習では、2年次以降から本格的に始まる経済学や経営学の勉強に備えて、「経済」とは何か、「経営」とは何か、について考える場を提供したい。そのために一番良い方法は、経済新聞を読むことであろう。経済新聞には、前日までに発生した経済の動きが迅速に報道されており、またそれまでに発生した経済上の事件に関して簡単な解説も掲載されている。

また、証券市場が開設された翌日には、その市場での取引の様子を株式欄を見ることで経済の状況を知ることができる。どうせ就職活動を始めるところには、経済新聞を読みこなしていなければならないので、1年次の段階でどのように経済新聞を読みこなすべきか、について知っておいたほうが良いように思う。

授業計画

第 1 回	はじめに（本演習の進め方）
第 2 回	経済新聞の歴史をたどる
第 3 回	経済新聞に掲載されている記事とは何か
第 4 回	自分の興味のある産業の記事を読んでみよう
第 5 回	実物取引（金や石油）の記事はどこにあるか
第 6 回	経済新聞における文化欄の役割
第 7 回	経済新聞に掲載される小説の特徴
第 8 回	株式欄の読み方（1）
第 9 回	株式欄の読み方（2）
第 10 回	株式欄の読み方（3）
第 11 回	株式会社とは
第 12 回	経済において株式市場が重要なわけ
第 13 回	どのような会社の株が良い株なのか（1）
第 14 回	どのような会社の株が良い株なのか（2）
第 15 回	株式市場の発展に果たした経済新聞の役割
第 16 回	試験

到達目標

本演習の目的は、経済新聞を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、について知る能力を蓄えることである。知りたい情報が経済新聞のどの部分に書かれているのか、を理解できたら目標は達成されたといえる。

履修上の注意

経済新聞を自宅ですべて持っている人は、その新聞を持ってきてもらいたい。自宅ですべて持っていない人は、駅売りのその日の経済新聞を買って持ってきてもらいたい。

予習・復習

経済新聞をよく読むこと。できれば自宅ですべてもらい、毎日目を通せば、十分な予習と復習になる。

評価方法

毎回の授業で受講者に多く質問をするので、それに的確に答えられるかどうか、で判断する。また、節目節目で小テストをすることも考えられる。

テキスト

その日の経済新聞を持ってきてもらいたい。どの経済新聞であるかは、問わない。ただし、私は一番よく読まれている経済新聞を持参するので、同じものであれば理解はしやすいものと思われる。

授業概要

教養演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかり持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。

授業計画

第1回	概要
第2回	大学を知る
第3回	ノートのとり方を学ぶ
第4回	テキストの読み方を学ぶ
第5回	レポート作成法を学ぶ
第6回	パソコンやスマホで情報収集する
第7回	新聞で情報収集する
第8回	時事問題を考える
第9回	図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法を学ぶ
第10回	議論の仕方を学ぶ
第11回	プレゼンテーション①準備
第12回	プレゼンテーション②資料作成
第13回	プレゼンテーション③発表
第14回	プレゼンテーション④発表
第15回	レポート作成
第16回	期末テスト

到達目標

- 大学の施設・設備を有効に活用できるようにする。
- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
- 大学での学び方を体得する。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。なお、学外活動を行う場合がある。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する。

テキスト

指定しない。

授業概要

本演習は、経営学専攻の学生にとっての「入門の入門」と位置づけ、経営学の基礎を概括的に修得するよう指導します。演習は配布するレシメを用いて進めます。1 年次前期の学生が履修生となることを勘案し、議論への参加方法、講義中のノートのとおり方等、基本的事項等についても指導します。

国内外における銀行、メーカー、商社 3 業種での講師の勤務経験を生かして講義を行います。経営学は新しい学問であるため日々進歩しています、最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込みます。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進める習慣を身につけることは重要であり、履修生にはタイムリーな話題を提供して演習を活性化します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス —大学での経営学の学習方法—
第 2 回	企業の理解
第 3 回	企業の内部構造
第 4 回	コーポレート・ガバナンス
第 5 回	環境変化と企業の対応
第 6 回	企業経営と経営理念
第 7 回	経営戦略とは何か
第 8 回	事業システムの理解
第 9 回	マーケティングの理解
第 10 回	企業組織をどうつくるか
第 11 回	組織の中で人を動かす
第 12 回	財務と会計の役割を理解する
第 13 回	企業評価
第 14 回	企業環境の変化と新しい経営学
第 15 回	演習のまとめ

到達目標

本演習の到達目標は、履修生に経営学の概要を理解させるとともに、大学での学びの姿勢や技術を修得させることです。社会人経験のない学生が、経営学の基本的事項について臨場感をもって修得することができるよう、レシメ以外の教材や資料からできる限り頻繁に今日的话题を引用します。

履修上の注意及び予習・復習

演習で取り上げるテーマをもとにレシメの該当箇所について議論する場合、履修者は積極的に参加することが求められます。演習に参加するにあたっては、Teams に貼付するレシメを読んでおくことが必要となります。遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮します。

評価方法

毎回の講義ごとに出される課題レポートの結果を 70%、演習への参画度や取り組み姿勢を 30%の割合で評価します。

テキスト

テキストはレシメを使用します。参考文献は各講義で明示します。

授業概要

社会に出て仕事をしていると、その仕事に関する専門的知識だけでなく、その周辺の知識も含め、一定以上の水準の知識が必要とされます。(もし、それらの知識を知らない場合は・・・)したがって、それらの知識を知る必要があります。ただし、そのような知識を効率的・効果的に身に付けるためには、世の中の情報を「正しく」知り、その中の重要な点(「本質」)を発見する技術を備えていることが必要とされます。(「本質」でないものを身に付けてしまうと・・・)さらに、社会に出て、仕事を含め、充実した毎日を送るには、「私は、これを知っている!私にはこれができる!」というようなことが一つでもあると、毎日の仕事が楽しく、達成感を味わうことができます。

そこで、この授業では、そうした知識を習得し、及び、そのための基本的技術を学びます。

授業計画

第 1 回	ガイダンス(授業の進め方、資料配付等)
第 2 回	コロナ問題:①コロナと経済
第 3 回	コロナ問題:②コロナと格差
第 4 回	コロナ問題:③コロナとその他の問題
第 5 回	デジタル社会:①データ駆動社会
第 6 回	デジタル社会:②業務革新
第 7 回	AIの時代:①AIと雇用・働き方
第 8 回	AIの時代:②AIロボットその他
第 9 回	イノベーション:①若い組織の必要性
第 10 回	イノベーション:②中小企業に資源を
第 11 回	5Gとその展望:①スマート社会の構築
第 12 回	5Gとその展望:②創造性の進展
第 13 回	日本型雇用:①働き方改革
第 14 回	日本型雇用:②非正規労働等
第 15 回	2020年代の現状とその針路
第 16 回	期末レポートの提出

到達目標

次の知識の習得、そのための技術を学びます。①主として、経済、経営分野を中心とする知識。②その知識を得るために必要となる効果的な作業(技術)とは何か。③そのテーマの本質や真の問題点は何か。

履修上の注意

特定のテーマを決めて、記事や社説、論文等読み、次の点を自ら(及びグループで)調べて、発表していただきます。自分が就こうとする職業に関連する事項は何か、という意識を日ごろから持つようにして下さい。ネット、ニュース等の時事ネタ等も含め、興味を持つ用語を考えるようにして下さい。前述の「授業計画」の1から15までに掲げた事項(テーマ)は、前後したり、カットすることがあります。また、履修生から特定のテーマの希望がある場合には、上記のテーマを変更します。なお、教員からは、前述「授業計画」に掲げた種々のテーマについて資料を配布しますので、その中から選ぶことでも、よいです。

予習・復習

毎回予習復習を指示します。授業時間が90分だとすると、この他に、合計4時間程度を、自宅等での予習復習(その内容は、[理解・訓練・実行]ことです)に充てて下さい。毎日の生活においては、常に、新聞、ニュースの動きを、チェックする習慣を身に付けて下さい。

評価方法

テスト、レポート、発表等への配点が80%、授業での発言、貢献等の積極性が20%の配点です。

テキスト

特になし(授業で独自資料を配布しますので)

授業概要

大学生が卒業時までには身につけておきたい態度や能力として「社会人基礎力」という考え方が参考になります。「社会人基礎力」とは、社会で活躍している人たちが身につけている態度や能力の基礎部分を整理した考え方ですが、大きく捉えると、考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力の3つから成ります。そして、これらは、高校生までよりも大学生においてより一層重視されるようになる力でもあります。

そこで、この演習では、これらの能力等について学んでもらい、その後、皆さんの関心のあることについて話し合い、チームで調査するテーマを決め、実際に調査し、考察し、発表するという一連の流れを体験してもらうことで、考え抜く力（課題発見能力・考察能力・課題解決能力）、チームで働く力（コミュニケーション能力・協調性）、前に踏み出す力（主体性・実行力・プレゼンテーション能力）を伸ばしていきます。

授業計画

第 1 回	はじめに（教養演習Ⅰの目標と進め方）・自己紹介
第 2 回	大学生活と大学での学び（社会人基礎力等）
第 3 回	課題発見と課題解決、コラボレーション
第 4 回	考察の進め方
第 5 回	調査テーマの話し合い
第 6 回	班分け・テーマについての班ごとの話し合い
第 7 回	調査計画立案（調査内容・調査スケジュール・分担）
第 8 回	文章表現①（構成・文章）
第 9 回	プレゼンテーションの方法①（相手にどう伝える）
第 10 回	プレゼンテーションの方法②（表現上の技法）
第 11 回	中間発表
第 12 回	文章表現②（引用・参考文献）
第 13 回	文章表現③（著作権）
第 14 回	プレゼンテーションの方法③（発表の仕方）
第 15 回	まとめ作業
第 16 回	最終発表

到達目標

大学時代に身につけておきたい態度や能力とは何であるかについての理解を深める。
考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力を高校生の段階から大学生の段階へとレベルアップする。
文章表現、プレゼンテーション方法についての理解を深める。

履修上の注意

チームでの活動になりますので、お互いに協力し、積極的に参加するという姿勢がとても大切です。

予習・復習

予習：事前に配布する資料をよく読んでおいてください。

事前に出された課題を行ってください。

チームで決めた準備をしておいてください。

復習：演習内容を復習し、チームで決めた調査等を共同で実施してください。

評価方法

演習への取り組み姿勢（20点）、中間発表（30点）、最終発表（50点）で総合的に評価します。
チームでの活動ですが、発表は全員行います。

テキスト

教科書は使いません。

学習用の資料を配布します。

授業概要

大学に入学して、これからどう大学生活を有意義に過ごしていくかを考えることが必要です。これからの4年間に自分自身を見つめて、社会や企業や情報技術の知識を身に付けながら、自分が学ぶべきことを考えます。また、この大学での勉学に必要な知識、技能、学習態度など基本となることを座学と演習で学びます。そのためには、新聞、雑誌、書籍などから学生に興味深い新しい題材を見つけ、理解を深めるための勉学を進めたいと思います。「演習」(ゼミ、ゼミナール)というのは大学で初めて登場する授業形式です。学生が自ら学習活動を行う授業になります。学生には、それぞれ発表する機会を作ります。課題提出、発表が前提になります。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	自己紹介 (自分で説明する資料を作成してくる)
第 3 回	大学生活で何をしたいかを考える
第 4 回	情報収集(書籍) …学内図書館ツアー予定、文献ネット検索
第 5 回	テーマの決め方と情報収集の方法
第 6 回	レポートの書き方
第 7 回	最近、注目のテーマを新聞、雑誌、書籍などから選び発表する-1
第 8 回	最近、注目のテーマを新聞、雑誌、書籍などから選び発表する-2
第 9 回	プレゼンテーションとは
第 10 回	社会の変化と情報通信技術について考える
第 11 回	情報通信技術を使った新しいビジネスを調べる
第 12 回	情報通信技術を使った新しいビジネス事例を調査する
第 13 回	各自が選択した新しいビジネス事例をレポートにまとめる
第 14 回	新しいビジネスモデルについて発表する
第 15 回	グループワークとして、新しいビジネスモデルを考える
第 16 回	グループ毎に発表し、質疑応答する

到達目標

本演習の目的は、大学生として大学で学ぶ意味や目的を考え、理解すること。そして、学習する基礎となる思考力、情報収集力、読解力、記述力、プレゼンテーション能力を高める。その方法として、新聞、雑誌、書籍、インターネットなどから情報を収集し、情報を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、人はどう判断するかなどについて知る能力を蓄えることである。

履修上の注意

- 1) 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。遅刻の場合は理由を説明してください。
- 2) 演習のメンバーの意見を理解し、それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。
- 3) パソコンの Word, Excel, PowerPoint, メールを使用する。

予習・復習

- ・事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- ・授業中に指示されたレポートは必ず提出すること。

評価方法

小テスト、レポート、発表等への配点が80%、授業での発言、貢献等の積極性が20%の配点です。

テキスト

- ・テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

授業概要

経済経営学部において4年間専門分野で勉学するために役立つ、経済・経営分野の興味のある分野に関して、新聞、雑誌、書籍などから題材を求め、受講生の理解を深めるための勉学を進める。

また、興味がある分野の企業活動を通して問題・課題を抽出し、自分で調べて分析することで、解決策を導き出すといった考えるという勉強のやり方を身に付けると共に、調査・分析した結果はレポートにまとめて、授業の中で発表することで、大学生としての基礎力を修得することを目的としている。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	大学で学ぶとは何か
第3回	大学生の基礎
第4回	レポートの書き方
第5回	論文の書き方
第6回	先行研究の調査
第7回	関心のある企業を選択
第8回	関心のある企業の調査項目
第9回	企業の社会的役割
第10回	企業の経営と組織
第11回	企業の経営分析
第12回	経済新聞、ビジネス雑誌の読み方
第13回	経済新聞、ビジネス雑誌のトピックをレポートにまとめる
第14回	各自レポートの発表と討議
第15回	各自レポートの修正と発表
第16回	定期試験

到達目標

- ・大学生としての基礎力である「読む、書く、伝える、話す」を修得する。
- ・問題、課題を抽出し解決する能力を身につける。
- ・複数の企業の経営内容を比較し、レポートにまとめることで調査・分析力を修得する。

履修上の注意

- ・問題意識を持って質問する、或いはグループワークにおいて、積極的に発言して議論すること。
- ・予習、復習をきちんと行い、毎回出席すること。

予習・復習

- ・事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- ・授業中に指示されたレポートは必ず提出すること。
- ・毎回授業後は復習することで、理解を深めること。

評価方法

- ・授業への参加意欲(20%)、課題提出(30%)、定期試験(50%)で総合評価します。
- ・授業態度が不良の場合は「不可」とします。

テキスト

- ・テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

授業概要

教養演習Ⅰでは大学でのこれからの4年間に自分自身で学ぶべきことを考えます。加えて大学での勉学に必要な知識、技能、学習態度を演習形式で学びます。

「演習」(ゼミ、ゼミナール)というのは大学で初めて登場する授業形式です。「演習」は座学形式の「講義」ではなく教員の指導の下で学生が自ら学習活動を行う授業になります。したがって学生の毎回の授業参加。課題提出、発表が前提になります。「演習」は学生同士が議論を通じて発言する能力や考える能力を伸ばしていく「演習」です。授業への主体的かつ積極的な姿勢が要求されます。

授業内容の詳細は、以下の授業計画ですが、この演習を履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めます(したがって変更になる可能性があります)。

授業計画

第1回	授業ガイダンス 授業の内容と課題「新聞記事のスクラップ・ブック(+コメント)」の説明等
第2回	自己紹介(与えられた時間内で初めての人に自分を紹介し、アピールする訓練)
第3回	情報収集(新聞、雑誌、テレビ等のメディア)
第4回	情報収集(パソコンやスマホ)
第5回	ブックレポートの説明
第6回	情報収集(書籍)…学内図書館ツアー予定、文献ネット検索
第7回	本の読み方、買い方、使い方①
第8回	本の読み方、買い方、使い方②
第9回	「新聞記事のスクラップ・ブック」の発表①
第10回	文章を書く、文章が書けるといふ学卒の人生
第11回	文章の表現技術…文章での1行の文字数、一段落の行数、番号の順番ルール(I→1→(1)→①→イ)など
第12回	文章の約束…参考文献、参照文献引用、コピー(Copy and Paste)のルール。著作権、剽窃。
第13回	プレゼンテーション(準備、資料作成、発表の方法の技法)
第14回	ブックレポートの発表
第15回	「新聞記事のスクラップ・ブック」の発表②
第16回	総括 修正後のブックレポートの提出。

到達目標

文章のルール、レポートの書き方、新聞の読み方。レジュメの書き方、発表の仕方など大学時代に必要な基礎能力を取得する。高校生から大学生のレベルにステップアップする。

履修上の注意

授業で提示する課題「新聞記事のスクラップ・ブック+コメント」と「ブックレポート(図書要約)」を複数ある指定日に提出のこと。その作業、訓練を通じて自分の能力を伸ばしていく。

予習・復習

- ① 次回授業での発表用意
- ② 「新聞記事のスクラップ・ブック+コメント」と「ブックレポート(図書要約)」

評価方法

課題の提出状況・内容や受講態度、無断欠席状況等を100点満点の減点法で評価する。例えば課題未提出無断欠席が-10点、課題内容不十分や遅刻が-5点など(第1回目授業にて詳細を説明する)。なお、毎回の発表に対してはフロアの学生による評価が行われる。しかしこれは発表した学生が自分を成長させていくための参考評価データとし、成績評価では勘案しない。

テキスト

授業時に紹介する。新聞(webでも代替可)とブックレポートでの本は読む。